

【令和5年度 学校関係者評価委員】

委員	氏名	所属	役職
委員長	鎌田 佳奈美	摂南大学看護学部	学部長
委員	木下 昌美	特別養護老人ホーム ファヴォーレ	法人本部長
委員	松村 到	近畿大学医学部	学部長
委員	笠井 千秋	近畿大学病院	副病院長
委員	加藤 満帆	近畿大学附属看護専門学校同窓会 礎	会長
委員	松島 祐樹	株式会社近大アシスト	総務部主任

2023年度 近畿大学附属看護専門学校
学校評価

1.評価の概要と今後の課題

基準1. 教育理念・目的・育成人材像
【評価の概要】 2023年度は、学校の教育理念・目的・目標について、保護者や講義担当者・実習施設などへの周知と浸透を目指し、保護者会、実習指導者会議での伝達、資料配付、実習要項掲載などを実施。また受験希望の学生等にも認識してもらえるよう、ホームページや募集案内への掲載も行った。学生への浸透度については、年度末に自己評価を行うことで認識を深めている。評議員からは、新人教員への浸透も必要であるとの意見があった。 本校の特色は、医学部・大学病院との連携であり、一部施設の活用や臨床医、認定・専門看護師の協力を得て、カリキュラムを設定している。
【今後の課題】 ・教育理念・目的・目標の理解を深めるため、カリキュラムツリーの活用。 ・講義と教育目標・評価とのつながりを授業を通して学生への浸透度を強化。
基準2. 学校運営
【評価の概要】 2023年度は大学の方針も踏まえ、教育や業務のデジタル化を進めていった。電子教科書は数年前から導入しているが、さらに電子掲示板の使用、GoogleDriveやGoogleclassroomを活用し、資料配付、課題提出などを実施。また、昨年度から出欠状況はポータルシステムを使い、確認できるようになっていたが、成績についても各試験ごとに公開し、タイムリーに自分の成績が確認できるようにした。出欠・成績情報については、学生だけでなく、保護者にも同時に公開し、確認できるようにしている。 国試対策においてもe-ラーニングを使用、講義では学生限定公開のYouTubeを作成するなどD Xを進めている。 学校運営ではアクションプランに基づく業務実施を行っているが、各業務の目標を数値化し、達成度を図っていくことが課題である。
【今後の課題】 ・業務の効率化、教務関連の業務のスリム化を図り、スムーズな学校運営を目指す。 ・アクションプラン達成に対し、数値目標の設定と評価の実施。
基準3. 教育活動
【評価の概要】 2023年度は、ディプロマポリシーに対して、科目との結びつきや評価の明確化を課題とし、各教員の担当科目において、教育目標との単元目標とのつながりや評価方法や基準の作成を行った。 ディプロマポリシーの達成度を図る評価表としてループリックを作成し、学生に自己評価させているが、教員が各学年のマイルストーンを元に客観性をもった評価も必要との指摘を受けた。 教育活動として、積極的にデジタル化に応じた手法を取り入れていることについては一定の評価を受けた。今後、教員間でさらに教育手法を学び合い、質の向上を期待する。
【今後の課題】 ・教育目標に対する科目目標・単元目標の提示と目標に紐づく評価の実施 ・教育力向上に向けたFDの実施と活用

基準4. 学修成果
【評価の概要】 国家試験の合格率は97%、就職率は100%となった。進学率については1.3%と横ばい（1名）であった。国家試験に対する取り組みとして、1年次から同じ業者のe-ラーニング教材を使用。日常の学習習慣の定着を目指した。1年・2年次は国家試験を見据えた学習会を空きコマを利用して行う、学生全体の苦手科目を復習するなど、学年全体での国試対策を実施。3年次は模擬試験等で学力を図りながらクラス編成をし、学習時間・方法など、学力に合わせた内容を実施。 卒業時の学習成果としてのマイルストーンは、就職先のニーズに合っているのか、連携はできているのか確認が必要。少なくともコミュニケーション能力や患者理解は学校で十分教育できるので、それらの評価を互いにすべきではないかとのご指摘あり。
【今後の課題】 ・3年間の国家試験対策の結果と評価 ・就職先と卒業時マイルストーンの共有。卒業生の評価方法の検討（継続課題）
基準5. 学生支援
【評価の概要】 学力に対する学生支援として、学習の習慣化、学習中の科目と連動した国家試験学習会などを実施。2022年度と比較し科目留年生が減少。ただし、退学率においては4.1%と例年2%前後で推移していたが、増加となった。 キャリア支援としては、1年次から業者による面接対策として、マナー講座やキャリアビジョンの必要性を、2年次には自分のキャリアマネジメントの必要性からインターシップの推奨、受け方のマナーなどをレクチャーをお願いしている。また、「看護マネジメント論」の中で、実際にキャリアアップをしている看護師に、経緯ややりがいなどの講演を実施。目指す目標の一助としている。 経済的支援としては、近畿大学病院からナイトサポーターのアルバイト依頼があり、学生へ周知した。短時間でのアルバイトに加え、病院の環境に慣れることにも繋がっている。 近畿大学病院への就職率アップについては、学校との連携がとれているとの評価を受けた。
【今後の課題】 ・学習困難学生への対応体制の整備、留年生、科目留年生の減少を目指す。
基準6. 教育環境
【評価の概要】 シミュレーション教材を有効に活用し、教育方法の充実を課題とし取り組んだ。リアルなベッドサイドを作成、臨床判断能力の教育を充実させることができた。 また、PCを全講義室に常設。PCやiPad使用のための備品も準備、スムーズな講義準備ができるようにした。 防災に関する環境整備について、棚の固定や整理、落下防止などには取り組んでいるが、備蓄関連については進んでいないことが課題である。
【今後の課題】 ・IT環境を利用した教育方法の充実（継続） ・学生・職員用備蓄の整備計画立案（保管と用品の準備）

基準7. 学生の募集と受入れ
【評価の概要】 2023年度はオープンキャンパスや受験対策講座、少人数制の学校見学を対面で実施。さらに病院事務の協力もいただきながら高等学校へ個別訪問を実施。入試制度については、指定校推薦入試や公募推薦入試に併願を導入し、一般前期入試を年内に実施することにより、令和6年度入試全体の受験生は増えたが、一般試験においては減少となったため、一般試験の受験生確保に向けての課題が残った。
【今後の課題】 ・ 当校（専門学校）の魅力発信（オープンキャンパス、HP等）
基準8. 財務
【評価の概要】 財務基盤を安定させるために中長期計画を策定している。 学園の経理規程に則り適切に予算執行のうえ、財務帳票を作成し、ホームページに財務情報を公開している。
【今後の課題】 ・ 志願者数を上げ収入を増加する必要がある。
基準9. 法令等の遵守
【評価の概要】 看護師養成所運営ガイドラインに則り、教員数の確保、環境整備を努めており、学校の教育・運営に関する情報は教育要項ならびにホームページに公開されている。権利擁護は近畿大学ハラスメント防止ガイドラインに基づき、学生への周知ならびに対応が図られている。但し、臨地実習やソーシャルネットワーク使用における個人情報保護ならびにハラスメント被害防止に対する認識には個人差がみられ、継続的な指導の強化・徹底が必要である。
【今後の課題】 ・ ハラスメント対応規定の検討 ・ ハラスメントや個人情報保護に関する啓発活動の強化
基準10. 社会貢献・地域貢献
【評価の概要】 2022年度から、社会学では地域の消防や医療機関へ講師を依頼、地域・在宅看護論実習では、地域の保健・医療・福祉の視点での活動の実際を見学させていただくなど、積極的に地域と連携を図る取り組みを始めた。数年前から認知症サポーターの研修会を実施（学生向け）。実習先の高齢者施設から夏祭りのボランティア依頼があり数名の学生が参加。 ただ、学校全体としての取り組みが弱い。コロナ禍以前に実施していた地域清掃の再開などの検討が必要。 教員側の社会貢献として、大阪府臨床実習指導者研修への教員派遣を行っており、指導者育成に対する貢献は評価できる。
【今後の課題】 ・ 学生の主体的なボランティア活動に向けての制度検討（表彰制度、ポートフォリオでの可視化など）。 ・ 地域連携に関する検討（継続課題）

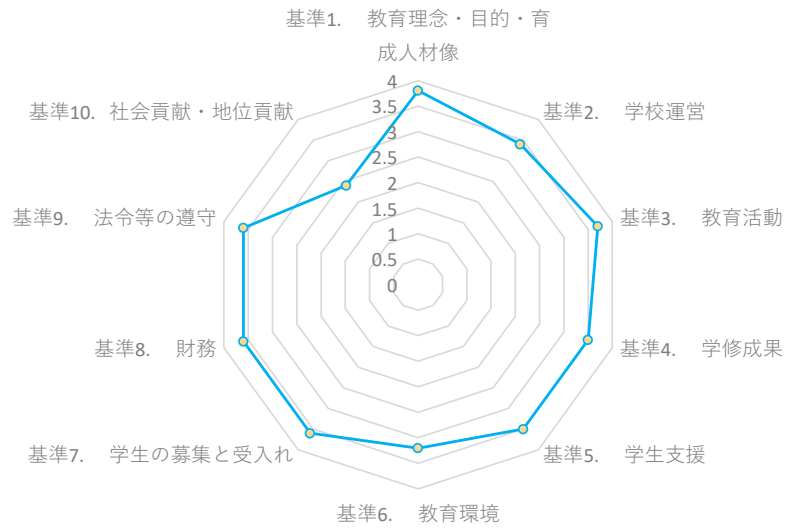
2. 評価結果

評価は次のとおり 数値化した。

適切：4 大体適切：3 やや不適切：2 不適切：1

項目	学校評価平均値	自己評価平均値
基準1. 教育理念・目的・育成人材像	3.8	3.1
基準2. 学校運営	3.4	3.2
基準3. 教育活動	3.7	3
基準4. 学修成果	3.5	3.1
基準5. 学生支援	3.5	3
基準6. 教育環境	3.2	3.0
基準7. 学生の募集と受入れ	3.6	3.5
基準8. 財務	3.6	3.8
基準9. 法令等の遵守	3.6	3.5
基準10. 社会貢献・地位貢献	2.4	1.4

学校評価



自己評価

